

交差性教育学(intersectional pedagogy)とは何か

関西大学人権問題研究室第116回
公開講座

赤尾勝己(研究員・文学部教授)

2024年6月28日(金)13:00～14:30

本時の構成

1. はじめに—クレンショーからの問題提起—
2. インターセクショナルリティをどうとらえるか
交差性とは何か
3. 批判的教育学(critical pedagogy)との関連性
フェミニズムによるP.フレイレへの批判
ヘンリー・ジルー マイケル・アップル
(筆者によるこれまでの研究から)
4. 交差性に基づく教育実践への示唆
5. 交差性に基づく生涯学習支援システムの構築
6. おわりに—インクルーシブな生涯学習社会に向けて—

インターセクショナリティとは、

インターセクショナリティ(intersectionality)とは、人種、性別、階級、性的指向、性自認など複数の個人のアイデンティティが組み合わさることによって起こる様々な差別の現状に目を向け、マイノリティの中でもさらに焦点の当たりづらい差別を受けている当事者を可視化するための概念である。

1. はじめに—クレンショーからの問題提起—

“

**IF YOU SEE INEQUALITY AS
A “THEM” PROBLEM OR
“UNFORTUNATE OTHER”
PROBLEM, THAT IS A PROBLEM.**

Kimberlé Crenshaw,

Lawyer, civil rights advocate and intersectional feminist



Photo: Muhammad Baderna, CC-BY-SA-4.0

K. クレンショーについての紹介

1959年生まれ。コロンビア大学ロースクールおよびカリフォルニア大学ロサンゼルス校の法学部教授であり、公民権、ブラック・フェミニズム、人種問題、人種差別、性差別、および法律の分野で執筆を行っている。とくに人種差別と性差別のなかで見落とされていた黒人女性と法律の問題を“インターセクショナルリティ”の問題として語ったクレンショーの研究は、偏狭な反人種差別主義やホワイト・フェミニズムを批判し、その後の人種と性差別の言説や行政に大きな影響を与えた。以降、階級や人種、性的指向、年齢、宗教、信仰、障害、ジェンダーなど複数の要因によって生み出される抑圧や支配、差別のシステムがどのように構築され、複雑に関係しているのかを導き出す研究が現在まで進められている。

インターセクショナリティ(交差性)という概念の登場

アメリカのキンバリー・クレンショーによって、**インターセクショナリティ**(intersectionality)という概念が1989年に提示されました。

これは、それまでのアメリカにおけるフェミニズム運動が、**白人女性中心**であったことへのブラック・フェミニズムからの異議申し立てでした。一人の人間が複合的な差別・排除要因にさらされていることを、私たちに気づかせました。

4. インターセクショナリティを取り入れ、フェミニスト理論と反人種差別主義政治を拡張する p.166

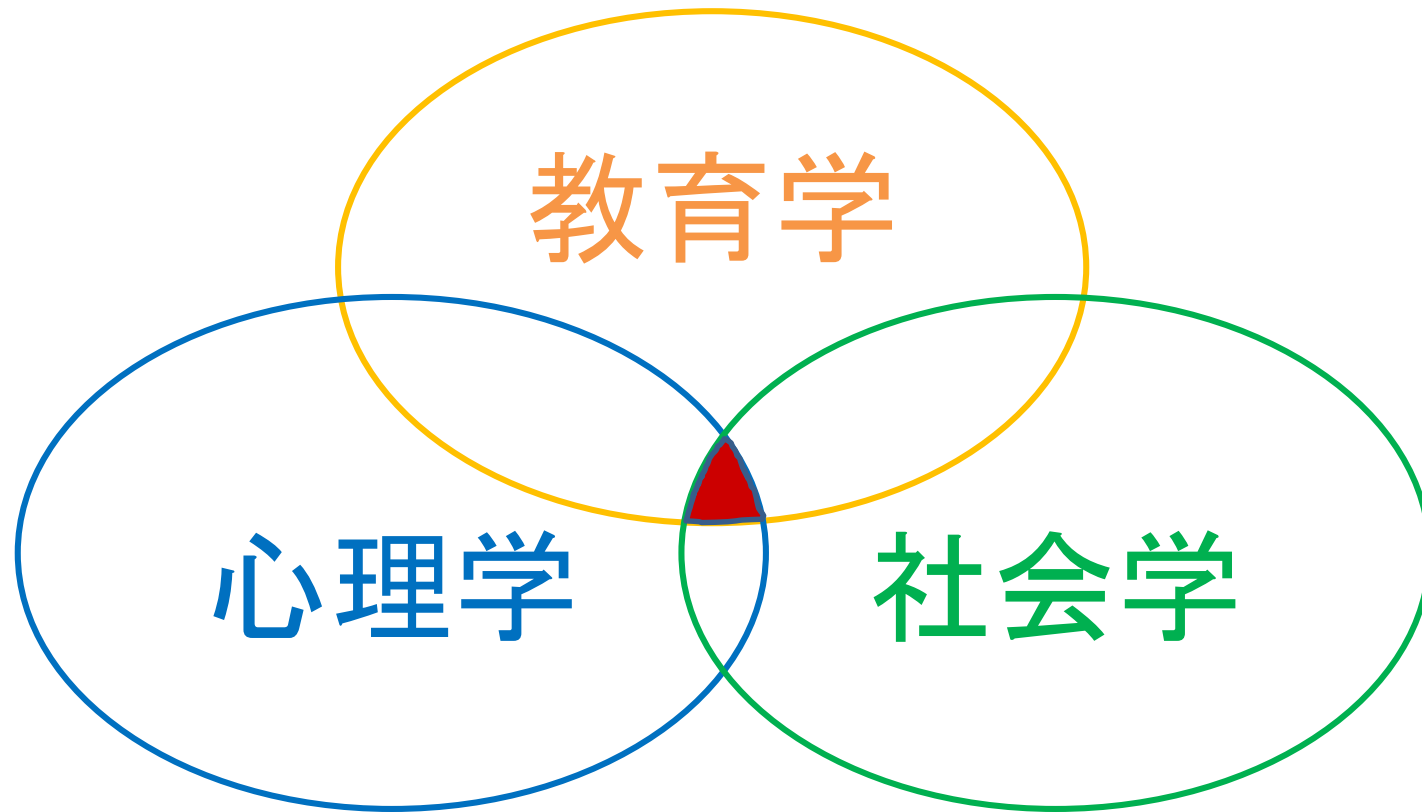
人種による従属を特徴付ける制約と条件から、黒人を解放するための真の努力がなされるとき、黒人コミュニティのニーズを反映することを主張する理論と戦略は、性差別と家父長制の分析を含まなければならない。同様に、フェミニズムが非白人女性の切望を表したいと願うときは、人種の分析を含める必要がある。黒人解放主義政治もフェミニスト理論も、その運動が各々の構成要素であると主張する人々のインターセクショナルな経験を無視することはできない。

クレンショ어의主張

「有色女性は、どのように**反人種差別**と**フェミニズム**の戦略的沈黙によって消去されうるかがわかる。双方の政治的優先は、有色者コミュニティにおいてDVの問題に直面する試みを促進してきた情報を抑制するようなやり方で規定されたのである。」

「・・・フェミニズムは有色者コミュニティの内側には居場所がない。」(Crenshaw1991:1253)

私の研究スタンス教育学、心理学に社会学を重ねて考察する。



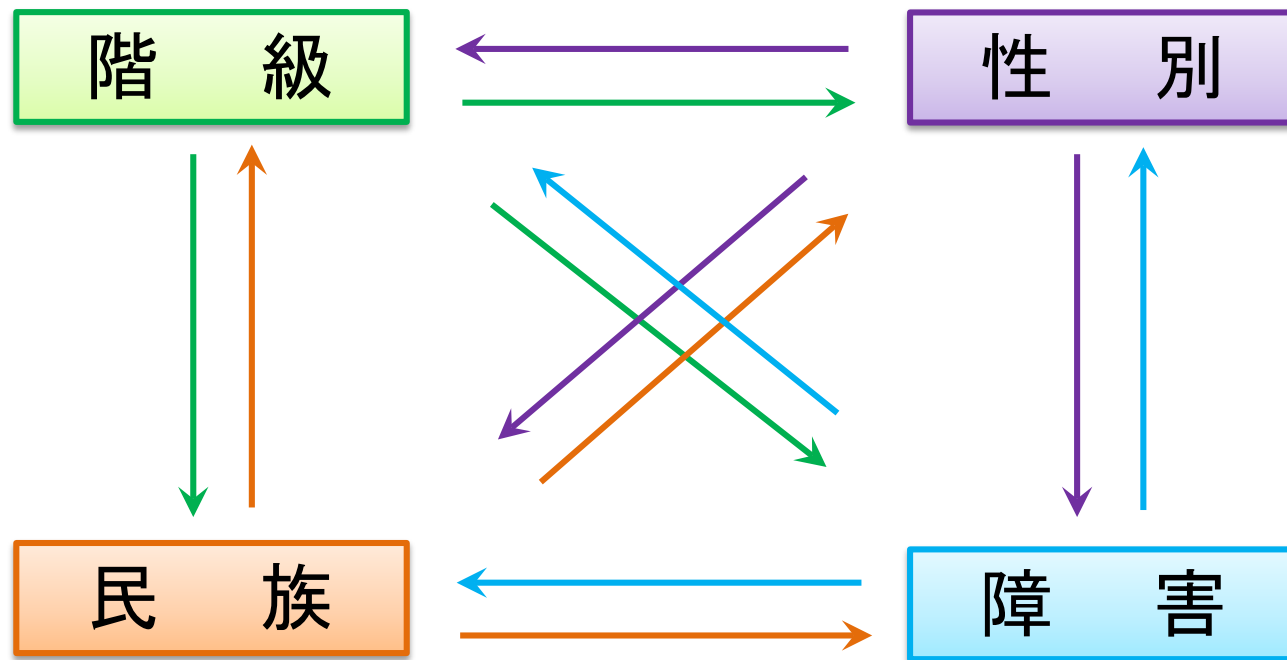
2. インターセクショナリティをどうとらえるか コリンズ & ビルゲによる定義

「インターセクショナリティとは、交差する権力関係が、様々な社会にまたがる社会的関係や個人の日常経験にどのように影響を及ぼすのかについて検討する概念である。分析ツールとしてのインターセクショナリティは、とりわけ人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、ネイション、アビリティ、エスニシティ、そして年齢など数々のカテゴリーを、相互に関連し、形成しあっているものととらえる。

コリンズ & ビルゲによる定義(続き)

インターセクショナルリティは、世界や人々、そして人間関係における複雑さを理解し、説明する方法である。(コリンズ & ビルゲ2021: 16頁)

上野千鶴子による複合的差別
のとらえかた(上野1996を一部改変)
2項目間で12通りの複合差別を指摘している。

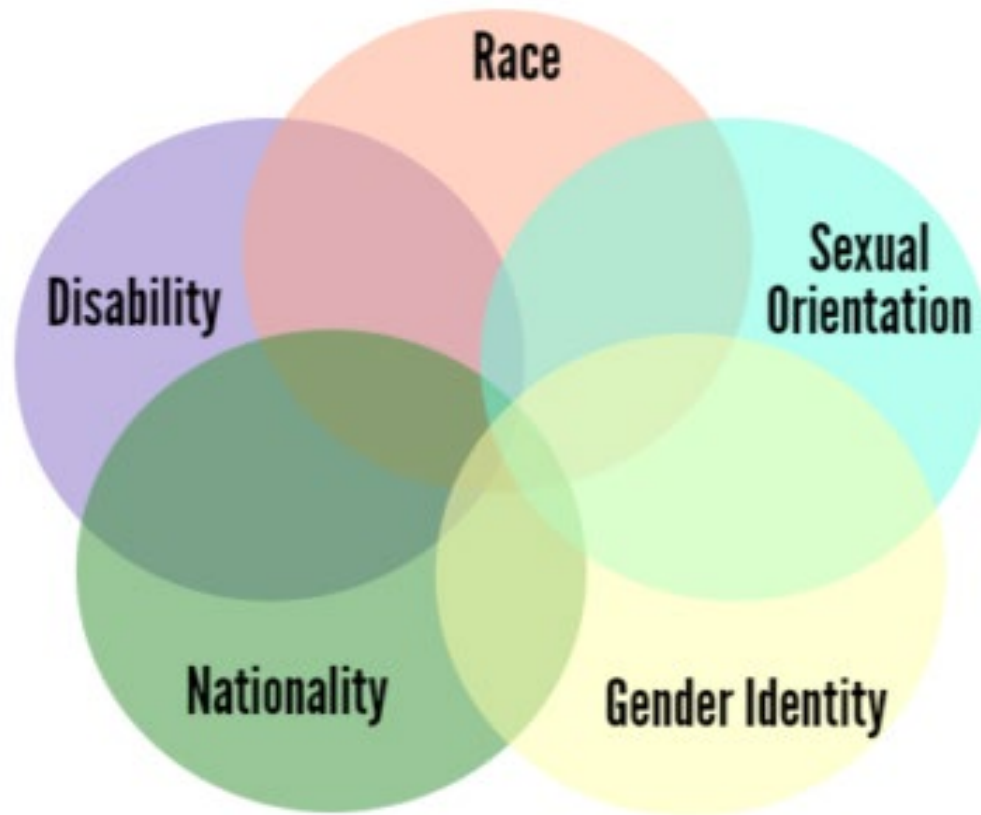


上野千鶴子への批判

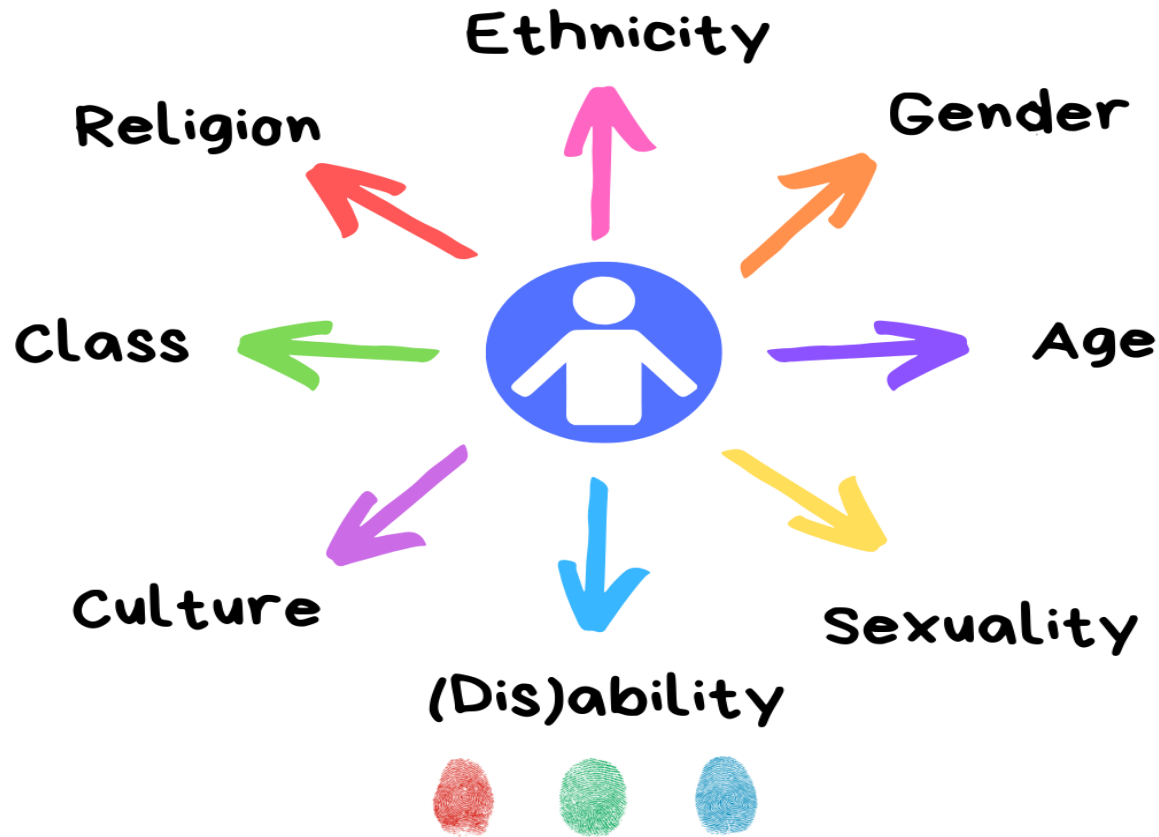
- 2つの社会的要因間での相互関係しか見ることができていない。

「複数の差別とその間の「因果関係」が図示されているが、それぞれの差別の軸が平面で並列になっているように見える。・・しかし実際にはこの「さまざまな差別」はフラットな平面上に存在しているわけではない。・・・(中略)・・独立しているかのように見える階級や民族の軸は、実はジェンダー化された概念であり、複数の軸は相互に独立した軸などではない。」(熱田敬子2022: 162-163頁)

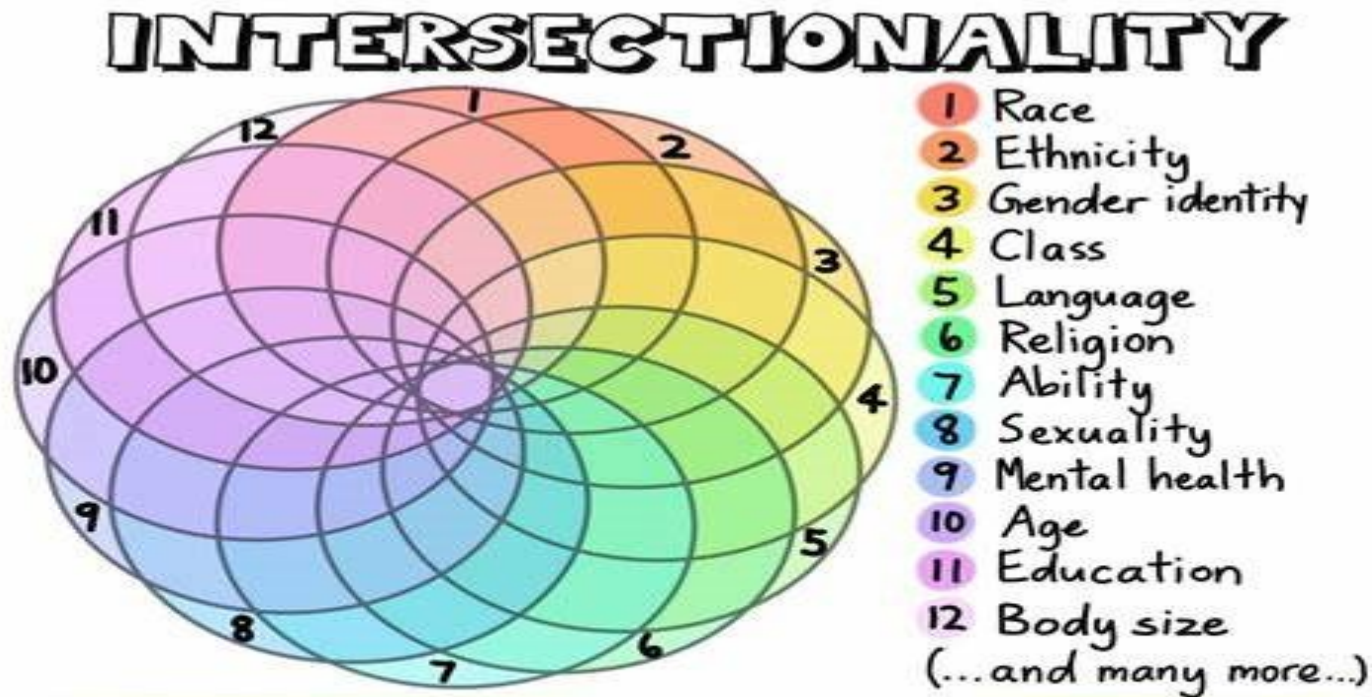
5つの要因が重なっている intersectionalityのモデル図



8つの要因からなる intersectionalityのモデル図



12以上の要因からなる intersectionalityのモデル図

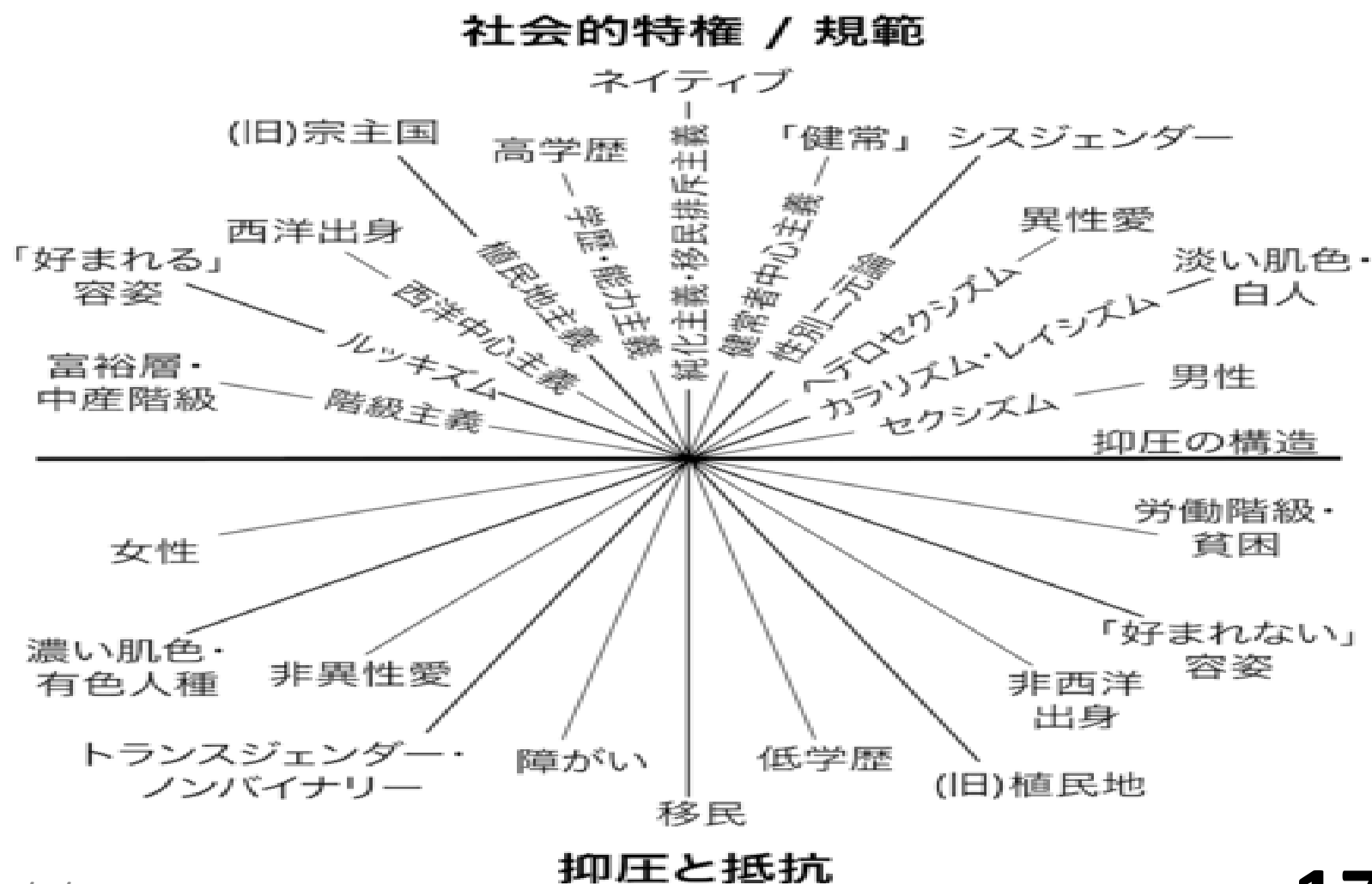


Intersectionality is a lens through which you can see where power comes and collides, where it locks and intersects. It is the acknowledgement that everyone has their own unique experiences of discrimination and privilege.

— Kimberlé Crenshaw —

@sylviaaduckworth

社会的特権と抑圧の関係



3. 批判的教育学との関連性

フレイレは、文字の読み書きのできない成人に識字教育を実践した。その方法は課題提起教育(problem posing education)と呼ばれる方法であった。課題提起教育は、次のようなプロセスを踏む。

まず、学習を促進する「調整者」が非識字成人たちにある写真や画像を見せる。そこに集まった非識字成人たちはその写真や画像のイメージについて語り合う。彼らは、文字の読み書きはできないが、日常会話で聞く話すことはできる。ある言語について「聞く・話す」次元と「読む・書く」次元は異なるのである。日常生活において、聴く・話すことは文字を介することなくできるが、必ずしも、それを読む・書くことはできない。

パウロ・フレイレの成人識字教育

そこで、調整者は、写真や画像に出ているものから、学習者を取りまく社会においてキーワードとなる生成語(generative word)を抽出する。例えば、ブラジルではポルトガル語が公用語となっているが、現地の生成語は、フレイレによって、スラム (favela)、雨(chuva)、鋤(arado)、土地(terreno)、井戸 (poco)など17語が選ばれた。

フレイレによると、文字を知ることが機械的な学習ではない。文字を知ると同時に世界を認識していける学習である。そうした学習を、課題提起教育の調整者は支援しようとするのである。ここでの調整者とは、学習を促進するファシリテーターとしての役割を担う。

パウロ・フレイレの成人識字教育

例えば、スラム（favela）という単語を教える場面では、次のような光景が想定されるであろう。

- ・調整者：「これは何ですか？」スラムの写真をスライドで見せながら
- ・学習者：「スラムです。」と答える。
- ・調整者：「スラムとはどんなところですか？」と問う。
- ・学習者：「汚い、こわいところです」と答える。
- ・調整者：「なぜスラムがこの社会にあるのでしょうか？」と問う。
- ・学習者：「・・・なぜかな・・・」と、答えに詰まる。

パウロ・フレイレの成人識字教育

ここで学習者は言葉に詰まるのであるが、そこから「スラムがなぜその社会において存在しているのか」、その理由についてまわりの学習者そして調整者とともに対話をしながら考え出す。そうした過程で、学習者は、この社会がきわめて不平等な社会であること、そしてこの不平等な社会のなかで自分がどのように位置づけられていることに気づいていく。この気づきは、意識化 (conscientization) と呼ばれる。つまり、文字を獲得して社会認識を発達させた学習者が、自ら生活している社会において自分がどのような位置にいるのか、すなわち社会的位置 (social position) がわかってくる過程でもある。

bell hooksによる問題提起

フレイレは、ブラジルやチリの大土地所有制における、荘園主、地主、小作農というヒエラルキーによる抑圧の構造を問題視した。

これに対して、フックスは、フレイレが階級(class)概念に特化した理論構成をしていたことを批判した。そこでは、男性の小作農が荘園主から搾取されているが、そこには女性は不在である。その男性は、家に帰れば、妻や子どもにたちに対して家父長的・抑圧的にふるまっているという「抑圧と被抑圧の交差的重層性」がとらえられていない。

フックスからフレイレへの批判

bh「性差別的な表現は、フレイレを読むたびに正直すごく気になった。それだけじゃなく、気になったのは、彼の思い描く解放の理念がファロス（注）中心主義的で（他の進歩的な第三世界の政治的指導者や知識人や批判的思想家、たとえば、ファノンやメンミなんかと同じように）、そこでは自由ってのは家父長主義的な男らしさの体験といつも結びついている。まるでそのふたつは同一のものであるかのように。この点にはいつも頭にくる。だって、すぐれた深い洞察力をもっている男性なのに、そののところでは全然物が見えていないわけでしょう。」（フックス2023:89）

（注）男根を意味する。

批判的教育学の系譜(1)

ヘンリー・ジルー(Henry Giroux)

教育が有する文化的再生産機能に対抗して、**抵抗理論**(resistance theory)に基づく教育実践の必要性を提起した。のちに**境界交差**(border crossing)に基づく教育実践のあり方を提示した。

ポール・ウィリス(Paul Willis)

Learning to Labourにおいて、労働者階級の男子生徒が学校には抵抗するが、疎外された労働には順応するという**抵抗の両義性**を明らかにした。

批判的教育学の系譜(2)

マイケル・アップル

1990年代に批判的教育学研究における階級、性、人種による**非共時的平行論的立場**(Non-Synchronous Parallelist Position)を提示した。

ここには、intersectionalityへの一定の受容が看取されよう。

(赤尾はこの論文を山本哲士と共訳。参考文献参照。)

M.アップル教授 ウィスコンシン大学 マディソン校で、1995年9月撮影。



非共時的並行論的立場の図

M.Appleは、今日の教育の現実に作用している権力関係分析する際に、子どもたちの階級(class)、ジェンダー(gender)、人種(race)という社会的要因が、社会における政治(politics)、経済(economy)、文化(culture)の動きと複雑に絡み合いながら構築されている点に注意をすることを論じた。どれか一つの社会的要因では説明できない、非共時的並行論的な分析が必要であることを論じた。こうした視点は、交差性に関連していることがわかる。

階 級

ジェンダー

人 種

政 治

経 済

文 化

アップルらによるこの図に関する説明

「・・・フェミニストの人々や人種問題に着目する人々から生じた団体行動や運動によって、批判的研究において、つまり社会的・経済的再生産論において、**階級**にのみ力点が置かれることに対して、正当にも異議が唱えられることになった。その過程で、再生産という概念自体にも激しい批判が向けられた。**階級・人種・ジェンダー**といった**各力学の内部に、またその力学の間に存在する矛盾や対立**が重視されることになった。

アップルらによるこの図に関する説明(続き)

たとえば、マッカーシーとアップルは、人種・階級・ジェンダーの諸問題を理解する分析枠組みとして「**非共時的並行論**」(non-synchronous parallelist framework)を提唱した。これは、**搾取と支配の諸力学それぞれの内部やそれらの間に存在する激しく、矛盾に満ちた相互作用**を認める分析枠組であり、批判的教育研究が自らの知見を示す上で、還元論的にならないように求めるものであった。」(アップル他2017:22)

アップルらによる Intersectionalityへの理解

「抑圧的諸関係の布置を描く際に生じる、まさに「**付加並列**」(たとえば、階級、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、能力・・・)と呼ばれてきた問題が歴史的に存在してきた。我々は、この**加法モデルの大きな危険性**に気づくと同時に、それがカテゴリー間の相互関係(intersectionality)という問題を等閑視することに帰結することにも気づく。」(アップル他2017:33)

パウロ・フレイレからの系譜

P. Freire

(K. Crenshaw)

bell hooks



Feminism Pedagogy
フェミニズム教育学
gender 中心

(H. Gintis/S. Bowles)

P. Willis

H. Giroux M. Apple



Critical Pedagogy
批判的教育学
階級 中心

交差性と批判的教育学の関係1

批判的教育学は、もともとマルクス主義教育学から生じており、**階級**(class)を第一義的な分析の対象とする。Gintis/Bowlesによる社会的再生産論による、教育と労働の場の機械的な「**対応理論**」への批判から始まっている。これは、その後、「学校への抵抗、労働への順応」という、階級の再生産過程における「抵抗」(resistance)の両義性に着目したP. Willisの所論に至る。この抵抗の可能性にかけたのがH. Girouxであり、彼の**境界教育学**(Border Pedagogy)は、教師と文化的労働者との協働によるカリキュラムの組み換えによる社会変革の可能性が提示されている。

交差性と批判的教育学の関係2

一方、M. Appleは、交差性からの問題提起を受けて、階級、ジェンダー、人種の3つの要因が、社会の政治、経済、文化の分野で、どれかひとつに還元できない非共時的な位置関係にあることを突きとめた。しかし、それでも教育分析の中心は、**階級**に重点を置かれている点は否めない。

交差性は、**ジェンダー**と**人種**の関係に重点を置いたブラック・フェミニズムから提起されており、とくにbell hooksが継承していると言えよう。

交差性教育学とは何か。

bell hooksは、フレイレをフェミニズム教育学の立場から批判して、やがて批判的教育学をも超える**関与の教育学**(Engaged Pedagogy)を構想するようになる。これはフェミニズム教育学と批判的教育学のさらに上を追究しようとする試みであった。その一端は、『学ぶことは、とびこえること』(Teaching to Transgress)に示されている。

「進歩的でホリスティックな教育、「関与の教育学」は、これまでの批判的教育学、もしくはフェミニズム教育学よりも、さらに要求するところが多い。「関与の教育学」は、後者の2つの教育実践とは異なって、「**心身のよきありよう**」が重視されるからである。それは、もし教師が学生をエンパワーするようなやり方で教えようとするならば、まずは**教師自身**が自らの生のありようを証しする作業に積極的に**関与し**、**己の心身のありよう**を高めていかねばならない、ということの意味している。」(フックス2023:36-37)

しかし、フックスはその全貌を示すことなく2021年にこの世を去ってしまった。

私のこれまでの研究業績から



赤尾勝己編『学習社会学の構想』 晃洋書房、2017年。

ここから本報告に関連した論稿として、下記の章が該当する。

第1部 学習社会学理論のフロンティア

第1章 「生涯発達」の社会学(赤尾勝己)

第2部 学習社会学のケーススタディ

第6章 ライフコースにおけるジェンダー意識の変容
(多賀太)

第7章 移動する子どもたちの文化とアイデンティティ
(山ノ内裕子)

第9章 シティズンシップ教育からシティズンシップの学習へ
(若槻健)

第10章 移民・移住者のシティズンシップの獲得をめぐ
って
(大野順子)

社会的要因に取り囲まれた学習者

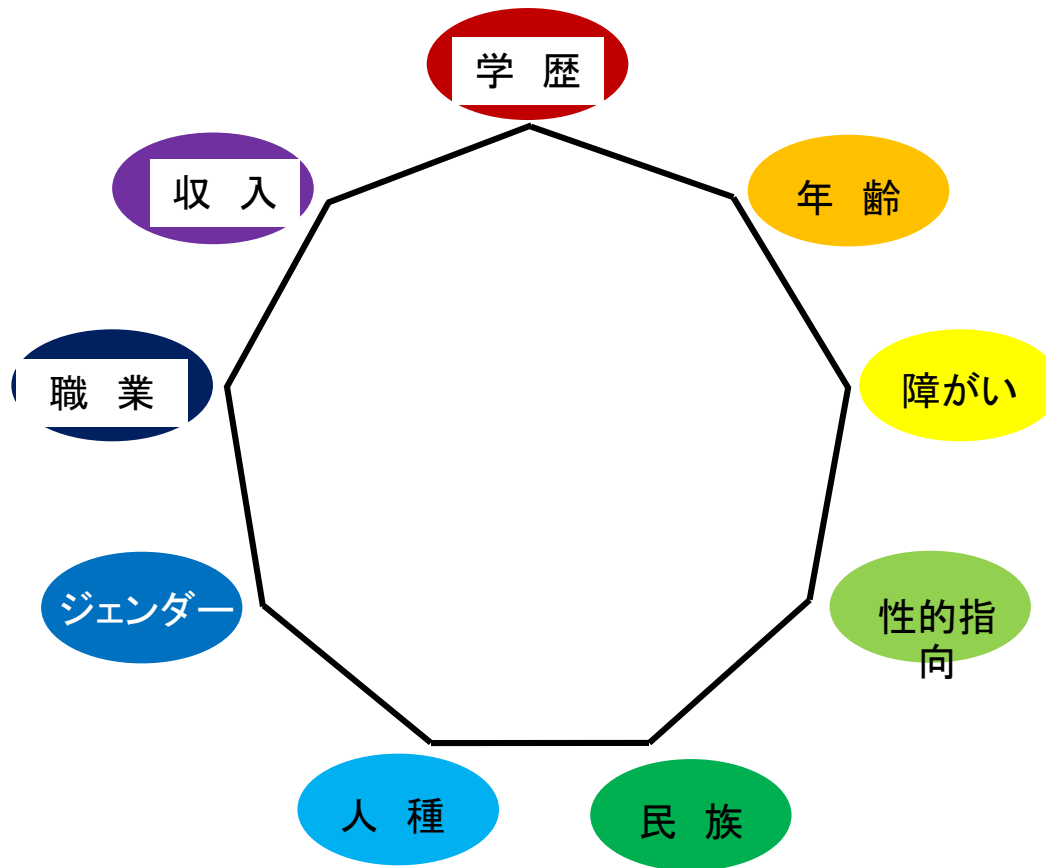


図1-1 人間の生涯学習に影響を与える9つの要因
(赤尾:2017)

人間の生涯学習に影響を与える9つの要因

(赤尾2017:14頁)

階級(class) (学歴、職業、収入)

性(gender) 人種(race)

民族(ethnicity) 性的指向(sexuality)

障がい(disability) 年齢(age)

これらに、その人がどこで生まれ育ったかという地域性を加える考え方もある。

赤尾勝己、吉田敦也編著『生涯学習支援の理論と実践』放送大学教育振興会、2022年。



本書で本報告に関連する章

第1章 生涯学習を支援するとはどういうことか

第4章 生涯学習支援についての基本的考え方(1)

1. 超高齢社会に向けた学習支援
2. 合理的配慮に向けた学習支援

第5章 生涯学習支援についての基本的考え方(2)

3. 青少年への学習支援
4. 男女共同参画社会に向けた学習支援
5. 多文化共生社会に向けた学習支援

(以上 赤尾勝己)

第12章 イノベーティブな学習支援技法7:

時代を拓くまちづくり(吉田敦也、西芝雅美)

4. 交差性に基づく教育実践への示唆

2024年4月1日現在、交差性教育学に関する研究業績は日本国内においてほとんどない。

外国の文献にあたるしか方法がない。

そうしたなかで、キム・A・ケース編著『交差性教育学—アイデンティティの複雑化と社会的公平—』(Intersectional Pedagogy: Complicating Identity and Social Justice) Routledge, 2017.が参考になる。

Kim A. Case ed., Intersectional Pedagogy: Complicating Identity and Social Justice, Routledge, 2017.



**INTERSECTIONAL
PEDAGOGY**
Complicating Identity and Social Justice

Edited by **KIM A. CASE**

本書の構成 最初の部分

序文 私たちの時代のために交差性を教える
謝意

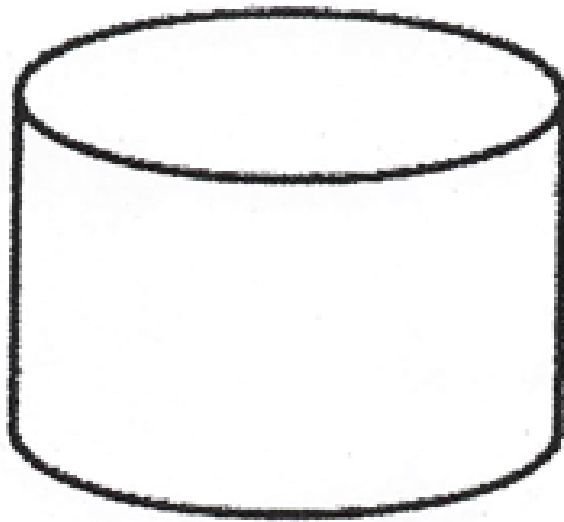
1. 交差性教育学のモデルに向けて一社会的公正に向けた学習に関わる

第1部 交差性理論とその基盤

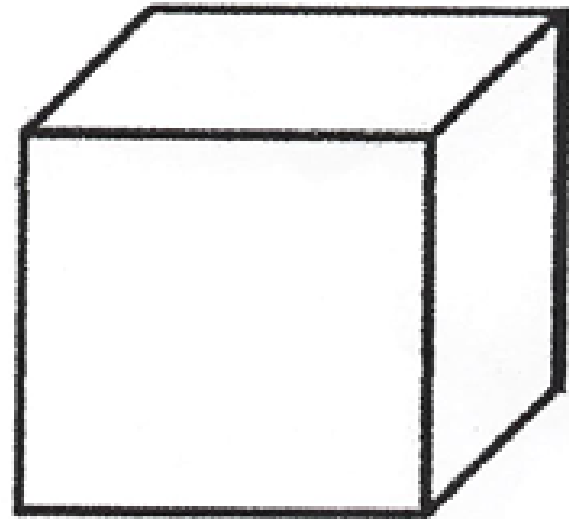
2. 交差性の基盤と規律の応用

3. 脱植民地化した交差性一理論への示唆

第1章 図1 人種とジェンダーを範疇として教える



Gender



Race

第1章 図2 交差性教育学： 個人レベルと構造レベル

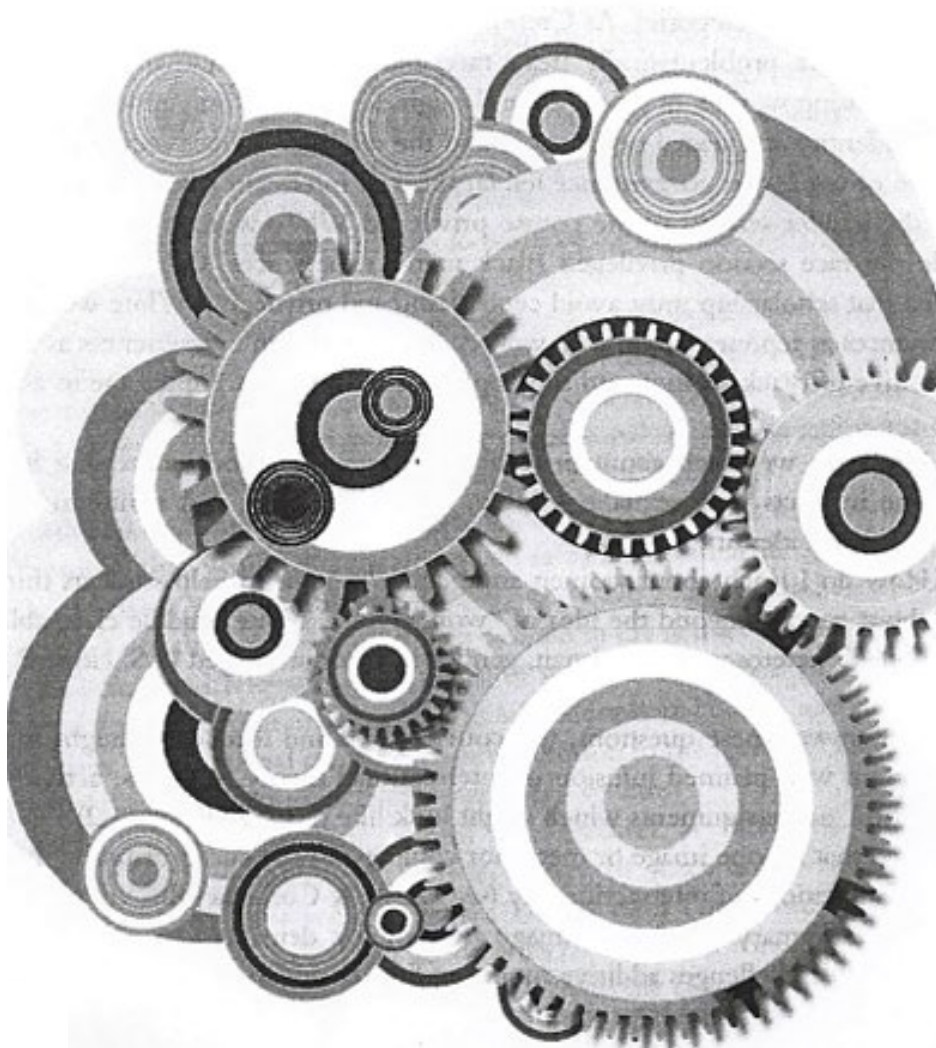
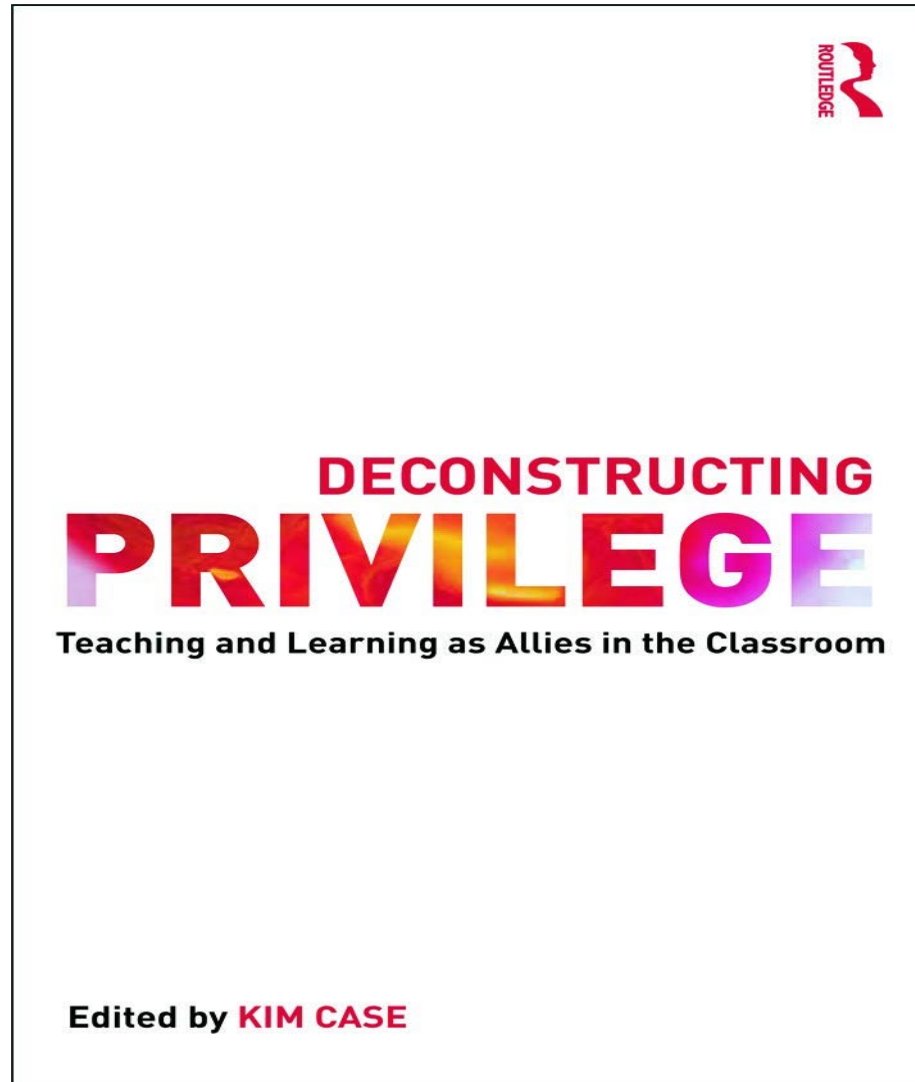


図2への違和感

歯車の比喻で各要因間の力関係を示しているが、その力関係が変わらないというイメージを喚起してしまう。一人の人間を構成している複数の社会的要因の力関係はけっして固定されたものではなく、刻々と変動に開かれている。人生のある時期では、複数の社会的要因のA要因が支配的で、B要因が従属的であるが、別の時期では、その関係が逆転するかもしれない。さらに、上野千鶴子が述べているように、ある要因が別の要因を亢進させたり減退させたりするメカニズムは、こうした歯車を使った図では表現することが困難である。そのように考えてみると、私たちは動きに開かれたより立体的な「交差性教育学のモデル図」を作成していく必要がある。

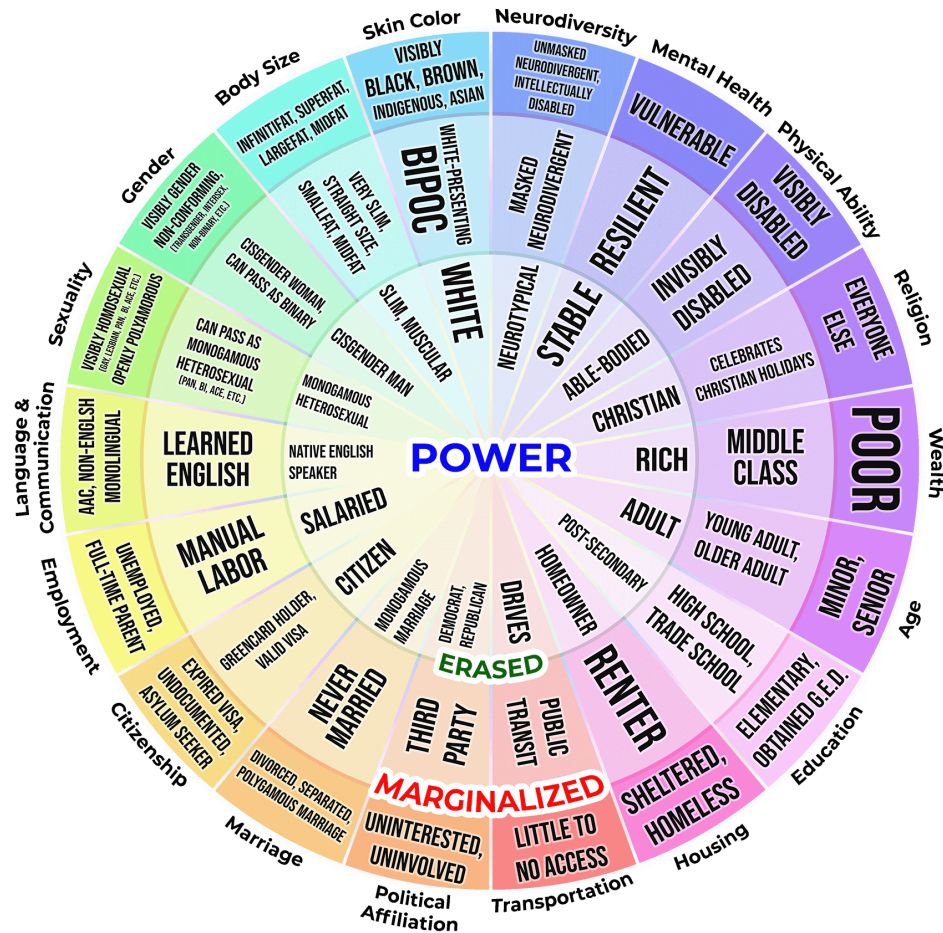
Kim A. Case ed., Deconstructing Privilege: Teaching and Learning as Allies in the Classroom, Routledge, 2013



交差性 特権の車輪

INTERSECTIONALITY WHEEL OF PRIVILEGE

As Observed in the USA



交差性教育の実践例1

『それが人生だ！（C'est La Vie!）

社会生活のゲームー特権と構造的不平等について教えるために交差性のアプローチを使う』

第1部 登場人物のプロフィール

第2部 戦略ゲーム

第3部 ふりかえり、議論、報告

Kosha D. Bramesfeld & Arla Goodview etc,
Teaching of Psychology Vol.43, Issue 4, 2016.

C'EST LA VIE: THE GAME OF SOCIAL LIFE

Created by Kosha D. Bramesfeld
Ryerson University



このゲームについて

このゲームは1～2時間かけて交差性に気づく activity です。(ルーレットやサイコロは使用しない)
まず、生徒は64の人物プロフィールから1つをランダムに取り出して、戦略ゲームに使います。その人物プロフィールには、人物の**人種**、**民族**、**市民としての地位**、**投票権の有無**、**ジェンダー**、**性的指向**、**障がいの有無**が書かれています。その人物は、**社会階級**を示すために、出発点でお金のcreditを受け取ります。

Profile descriptions

- あなたのプロフィールにあなたの次のキャラクターが記述されます。
 - ジェンダーと性的指向
 - 人種/民族
 - 市民としての地位
 - 特殊な条件と障がい
 - お金, ボーナス, 投票上の地位.

C'est La Vie: A Game of Social Life!

Your game ID: 4

Total:

YOUR CHARACTER PROFILE: Your character identifies as a heterosexual female.

She is White (of European descent) and a citizen by birth. Your character has a strong social support system. Your character begins the game with 60 money boxes and 5 bonuses. Your character is able to vote.

このゲームについて(続き)

社会的な特権には、0～7ボーナスcreditが与えられます。より特権的なアイデンティティをもった登場人物には最大のボーナスcreditを受け取ります。そして、playerは、登場人物の**お金**、**ボーナス**、**経験**、**健康**の損得をもたらす戦略ゲームの中で決定します。決定のシナリオは、ファシリテーターによって、パワーポイントのスライドで示されます。その決定の選択は、playerによって個々のスコアカードに記録されます。

このゲームについて(続き)

このゲームでの各々の決定は、ゲームの他の側面に影響を与える結果を伴います。例えば、このゲームの最初のところで、異なる近隣地域で家を建てることを選択したとします。**近隣地域の選択**は、**健康**と**学校選択**に影響を与えます。学校選択は、のちに**雇用機会のアクセス**に影響する**教育機会**に影響を与えます。それはまた**健康管理**にも影響を与えます。

このゲームについて(続き)

このゲームでの他の決定のシナリオは、playerにお金、ボーナス、経験、健康の間で交換をするように求めます。決定の選択の幅と結果の厳しさは、各playerが特権的な社会集団に属するか、周辺的な社会集団に属するかによって影響を受けます。交差性の原理と一致して、このゲームの結果は、多くの特権的なアイデンティティをもった積極的な効果をもたらしたり、多くの周辺的なアイデンティティをもった否定的な効果をもたらしたりします。

Social Group

Social Group(s): M Q

- **Social group:** Your character is associated with **one or more social groups**. These groups represent various social categories related to **race** (V, W, and Q), **gender** (V, W, M, N), **sexual orientation** (V, W, P), and **ability/disability** (V, W, S). The exact nature of these codes will be explained at the end of the game. In the meantime, you will want to pay attention to the letters printed in the Social Groups box when making certain decisions within the game.

Social Groups Decoded

- V = heterosexual, White, cisgender male, abled, not poor
- W = heterosexual, White, cisgender female, abled, not poor
- M = cisgendered, heterosexual male
- N = female
- P = lesbian, gay, bisexual, transgendered, transsexual
- Q = racial/ethnic minority
- S = physical, cognitive, mental, sensory, emotional, or developmental disability –and/or- English as a second language (ESL)

このゲームについて(続き)

これらの効果はこのゲームをとおして累積されます。

このゲームの多くの地点で、**集団的な決定**がなされます。それによって、**交差した特権のシステムが構造的な不平等に貢献している過程**が示されるのです。例えば、集団的な決定の一つとして、生徒たちは、近隣地域が健康から利益を得る議案に投票する機会が与えられます。その投票に参加するために、生徒たちは2ボーナスcreditを使わなければなりません。

このゲームについて(続き)

もっとも特権的な人物だけが、使うためのボーナスcreditをもっており、生徒たちは、その人物の利益に基づいて投票する傾向があるので、すでに特権をもっている人物は、他の人物を犠牲にして、利益を得るのです。このゲームとその結果は、**特権と構造的不平等**についての教室での議論を促進するために使われます。

交差性教育の実践例2

批判的ゲームデザインを通して交差性を教える
(Teaching Intersectionality through Critical
Game Design)

60分間のワークショップ

Bonnie Ruberg, PhD.

研究領域： ビデオゲームのなかのジェンダー
と性的指向

このワークショップでは、

私たちは、参加者が交差性(intersectionality)に関するゲームを創ることに挑戦させ、多様性についての批判的デザインの実践を提供します。それによって、どのようにシステムが抑圧(他者化や差別を促進する)や、逆に、解放(コミュニティや行動主義を進める)するように作用するかについての理解を助けます。この発見学習的な実践は、教師が教室に導入するツールとしてだけでなく、生徒が**権力システムの複雑性**を理解するためのツールとして企図されています。

このワークショップの行程は、

どのようにして、ゲームが**構造的な抑圧のモデル**と同時に**対抗的な公共性**を想像する可能性をもたらしているかについての導入を含んでいます。参加者には、ゲームデザインの基礎的要素を伝える基礎的なtool kitが与えられます。グループでは、参加者は2つの領域か権力システムを確認し、どのようにしてこれらのベクトルが交差しているかについて探究することが求められます。

ワークショップのプラン

1. 導入
2. グループワーク 交差する社会システムを創るゲームを作る。
3. 他のグループのゲームをやってみる。省察と議論。

成果：ゲーム機に社会システムを置換することで、どのように社会システムが交差しているかを理解する。

ビデオゲーム

- デジタル・プラットフォーム上で行うゲーム
- 1人称の射手から難問までの多くのジャンル
- ゲーム文化とゲーム産業＝ビデオゲームの理解にとって重要な部分です。

ビデオゲームとフェミニズム

- ゲーム(内容、コミュニティ、仕事)における差別の長い歴史
- 批判的な声からの反対による最近の活性化
- 差異を表象する小規模なゲームにおける最近の活性化
- オンライン上のハラスメント加害者からの反動的な攻撃

システムとしてのビデオゲーム

- ゲームを定義する多くの方法
 - システムとしてのゲーム＝連動しあうルール/機器
 - ルールは、なにが可能なのか、どんな行動がどんな成果をもたらすのか、どのように権力と価値が交換されるのかを決定する。
- すべてのゲームシステムは、「価値」を伝達する。
- 意識的なゲームデザイナーは、これらを伴いデザインする。

システムとしてのビデオゲーム

批判的ゲームデザイン＝現実世界の文化的ダイナミクスを表現したり、それに挑戦するゲームシステムを使う。

ゲームデザイン101

ゲームデザイン・ツールセット

-ゴールを経験する＝デザイナーはplayerがplayしている時に、何を学び何を遂行することを、求めているのか。

-仕組みとルール＝playerが交流する方法

-内容/物語＝構造的な仕組みを覆っている物語またはテーマ

-テストプレイ＝playerが進行中のゲームのリハーサルをする。

ゲームデザイン・ツールセット

利用できるデジタルゲーム作成ツール：
Twine, Gamemaker, Kool, Tool, Emotica, etc.

その事例 : Candy Crush SAGA

1. 3つ以上の同じ種類のcandyを合わせて取り除く。
2. より大きな組み合わせまたは特別なcandy＝より多くのポイント
3. ボードをつくっていくこと、限られた動き、付加的な能力を通して複雑さが加わる。

システム＝要因のネットワーク

Candy Crush SAGAのゲームボード



Candy Crush Could be about...

キャンディは、ゲームの仕組み上、経験則または「**肌**」(skin)である。それが関わるのは:

- 蓄積へ向けた動き
- 消費
- コミュニティを創る
- 資源の管理

あなたのゲーム

交差性についてのブレイン・ストーミング

社会的要因、権力のシステム、そしてアイデンティティの問題・・・

（キャンクラ・ゲームは、「隠れたカリキュラム」として、いかに早く3つの同じ色のcandyを、つまり同じ種類の肌の人間を**排除**するかということを要求している。同時に、4つの同じ色を集めると**より高度な排除機能**が付加される。）

グループによるデザインの課題

:15分間

1. ボード上に挙がっている要素から、あなたが交差的と思うものを2つ取り上げてください。
2. ヒント： あなた自身の経験から特殊な状況について考えてください。
3. 議論：どのようにして、これらの要因は仕組みの中に置き換えられますか？
4. あなたの前にある材料のいくつかを使って、これらの要素の交差性を形づくるゲームをデザインしてください。
5. あなたのruleを簡潔に明瞭に書き出して下さい。

プレイテスト: 各5分間

- 各グループの2名がそのゲームに残ってください。
- 3名のplayerは他のグループのゲームに移動してください。
- できるだけ、そのゲーム自身に語らせてください。

テストプレイのヒント:

各playersは自分の思考の過程について語ってください。

- ゲームデザイナーは、行動だけでなく言葉も見守ってください。

グループ・ディスカッション: 5分間

- プレイテストをした人たちへ。あなたの元のグループに戻ってください。
 - ゲームをやっている人たちへ。あなたが見たことを報告してください。
 - 何が計画したとおりにいきましたか？何をあなたは変えましたか？あなたは何を伝えたかったですか？あなたは何を伝えて終わりますか？
- 材料を片付けて元に戻してください。

教室でのディスカッション

これで終了です。

交差性教育の実践例3

インターセクショナルリティを教えるーアクティビティと教材(Teaching Intersectionality: Activities and Resources) ヘレナ(Helena)によって考案された。

大学において数年間、交差性、社会的公正、多様性について教えてきた。その間、多くの落とし穴に落ちたり、グループ討議で周辺的な学生を出したり、涙を流したりした。時を経て、教室でそれまでとは異なる方法で、交差性フェミニズムを構成的で鋭敏に導入することを経験した。

交差性フェミニズムは、

どのようにして、ジェンダー、性的指向、人種、植民地、階級、障がい上の抑圧が社会生活に影響を与えているかについて認識し、それに挑戦する知的・政治的運動である。

目次

1. 原則的な空間、安全でない空間
2. 期待を設定する
3. 交差性フェミニズムを導入する：活動

目次の続き

1. 授業前の読み物と視聴
2. 自己省察活動
3. 連動する権力システムについての講義
4. 教室内的のグループ活動
5. 最後の省察活動
4. さらに学ぶ
 1. 批判的教育学
 2. その他の教材

交差性フェミニズムを導入する: 活動

1. 授業前の読み物と視聴

クラスのレベルとその科目での交差性の中心性によって、私は授業の前に次の読み物とビデオを用意した。

Krenshaw K.(1989), Demarginalizing the intersection of race and sex: A black feminist Critique of antidiscrimination doctrine, feminist theory, and antiracist politics.

1.授業前の読み物と視聴

- クレンショ어의2016年のTEDトーク。
- Combahee River Collective(1983), A Black feminist Statement.
- Jennifer Nash(2016), Feminist Originalism : Intersectionality and the politics of reading, Feminist Theory 17(1)3-20.
- bell hooks, Teaching to Transgress.

2. 自己省察活動

- ・集団討議に移る前に、30分間、オンラインでこの活動を行います。

- ・この活動の目的は、**権力、特権、抑圧の不可視性について省察する**機会を与えることです。交差性理論をあなたの経験の分析に応用しながら、**あなた自身の交差する特権と抑圧が、どのようにあなたのアイデンティティと他者との関係に影響を与えているか**、理解できるようになるでしょう。

「交差的なアイデンティティについて考えながら、あなたはどのように**特権**と**抑圧**を経験していますか。」

3. 連動する権力のシステムについての講義

- ・学生たち自身の特権と抑圧について省察をさせながら、私は、交差するアイデンティティの分析と、連動する権力のシステムをめぐるブラック・フェミニストの理論を結びつけます。
- ・ここでベル・フックス(bell hooks)の**帝国主義的白人至上主義的資本主義的家父長制**(imperialist white supremacist capitalist patriarchy)の概念を使います。
- ・女性の最高責任者(CEO)を歓迎するという事例では、cisgender、straight、able-bodied、middle to Upper classの高度に特権化された白人女性の権力が増えていくことが、家父長制の目的として歓迎されます。しかし、それは、しばしば、**帝国主義、白人至上主義、資本主義**を強化しています。

4. 教室内的グループ活動

- ・学生たちは4～5の討議集団に分けられ、各集団には、各ケースのうち1つを与えられ、ポスター紙とマーカーが与えられ、そのケースの分析を書きます。

Mari Matsudaという学生は次のような問いを发しました。「あることが人種差別に見える時、私は問います。そこには家父長制がありますか？」「あることが性差別に見える時、私は問います。そこには異性愛主義がありますか？」

- ・そこではっきりしているのは人種差別ですが、学生たちは、どのように家父長主義、帝国主義、資本主義が役割を果たしているかを考えるべきです。

5. 最終の省察活動

- ・どのように、あなたの仕事や人生が帝国主義的白人至上主義的資本主義的家父長制によって、形成されてきたについての履歴項目を書きます。
- ・あなたの現況において、どのようにあなたが帝国主義的白人至上主義的資本主義的家父長制の側面を反転させたり変容させたりしながら特権を行使してきたか？
- ・何人かの学生は、アイデンティティと権力システムを結びつけることなく、交差性は自己陶醉的な行為であるという考え方で、この科目から安易に離脱しました。

5.交差性に基づく生涯学習支援システムの構築

問題意識

教育方法についての心理学はあるが、
教育方法についての社会学は不在に等しい。

前者の例として、クロンバックによる「**適性処遇交互作用**」という理論がある。これは、どの子どもにも共通した効果的な教え方はなく、一人ひとり効果的な教え方（教える内容・方法）は異なるという理論である。

これは筆者にとって魅力的な理論であったが、学校教育を前提とした考え方であり、今日まで十分に展開されていない。なぜなら、一斉授業では適用できないからである。

適性処遇交互作用とは

Aptitude Treatment Interaction: ATI Cromback
によって提唱された教育心理学の用語

誰にでも効果的な学習方法は存在しない。

学習者の個人差である**適性**と、指導方法である**処遇**が互いに影響し合い、双方がマッチした時に、学習者は学習の効果を最大限に発揮できる。

教育方法学の前提には

近代公教育の文脈では、どの子どもにも共通の効果的な教育方法があるという前提が疑われていない。例えば、学校での授業場面では、

ヘルバルト 4段階教授法

明瞭・連合・系統・方法

ヘルバルト＝ツィラー 5段階教授法

予備・提示・比較・概括・応用 が有名である。

これらの段階を踏めば、どの子どもも教育内容を理解できるという考え方が支配的であった。

教育方法学の前提には

暗黙のうちに、教育の対象が「高い社会階層出身の白人の男子」という前提があったのではないか。

教育内容も、学年によって易しいものから難しいものへ段階づけて順序よく教えられてきた。

そこには、近代公教育における**教育の機会均等**理念の下で、「**教え方を標準化する**」という要請があったことは否めない。

学校を卒業したあとの学びの支援では

そうした共通の教え方・学び方を前提として考えることには無理がある。

人々の個性的な学び方を支援する方法があるほうがよいのではないか。

そこで、適性処遇交互作用とintersectionalityを融合させて、効果的なおとなの学習支援方法を考えてみたい。

1970年代からの適応理論(adaptive learning)

・アダプティブラーニングは、コンピューターアルゴリズムと人工知能を使用して学習者との相互作用を調整し、各学習者の固有のニーズに対応するためにカスタマイズされたリソースと学習活動を提供する教育方法である。

・学校教育では、児童・生徒がデジタル教材を利用して学習した履歴データなどを活用し、一人ひとりの習熟度に応じて提示する演習問題の内容をカスタマイズするなどして、学びの質を高める手法のこと。国内では民間会社による、AI(人工知能)を活用してアダプティブラーニングを支援するサービスが登場している。文部科学省が2018年6月に発表した「Society 5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～」で、「すぐにでも着手すべき課題」の1つとしてアダプティブラーニングの推進を挙げるなど、アダプティブラーニング推進の重要性を唱えている。その後、同省が2019年度に打ち出したGIGAスクール構想により、学校教育の現場でアダプティブラーニングを実現しやすい環境が整いつつある。同構想は「公正に個別最適化された学び」の実現を目指し、児童・生徒1人につき学習用端末を1台と学習用アカウントを整備した。これによって従来のように教員がクラス単位で授業を進めるだけでなく、児童・生徒が自分のペースで学習を進めやすくなった。(日経クロステック2023年1月13日)

私が現在、構想している研究テーマは、

「生成AIによる生涯学習支援システムの構築—交差性(intersectionality)概念を基盤に据えて—」です。
これは次のような問題意識に基づいています。

日本社会が「生涯学習社会」と言われて久しい。その背景的要因として、高齢化、余暇の増大、高学歴化、情報化、国際化、急激な技術革新、自己実現志向の高まりが指摘されています。つまり、常に携帯電話、パソコンや書籍、他者から学ぶことによって、人びとが自らの知力を発達させ、よりよい人生を送っていくことが望まれているのです。

現在、構想している研究テーマ（続き）

ところが、学習したいという要求はあるものの、ある内容についてどのようにして学べばよいかについてわからないという人たちが多くいるようです。つまり、学習内容と学習方法の最適なマッチングができずに、学習方略がわからないまま学ぼうとしています。そこで本研究では、生成AIによって、学習者個人を構成する10の社会的要因が交差する「交差性(intersectionality)」を基盤に据えた「総合的かつユニバーサルな学習支援システム」を開発することにしました。このシステムを利用して、人びとがいつでもどこでも好きな内容を、どのように学んでいけばよいかがわかることになります。これはまさに生涯学習社会日本にふさわしいシステムの開発であると言えるのではないのでしょうか。

公益性を有する生涯学習支援 システム

学習したいと思う人Aの属性を生成AIに記憶させる。交差性の観点

+

他の人B・・・がやっとうまくいったデジタル化された学習記録（デジタル・スタディログ等）、学習履歴(learning portfolio)を記憶させる。

|

双方を照合させて、学習者Aに最適な学習方法を提示する。

このシステムを使って、学習者個人にとって最適な学習方法をノートパソコン、タブレット端末やスマホで提示できるようにする。

これは公益性を有するシステムであるので、利用者は無料で利用できるように整備する必要がある。

先行事例1

スタディ・アプリ(リクルート マーケティングパートナーズ)

各教科の「神授業」を会員にインターネット配信している。

2011年に会員制の無料受験情報サイトとして開始された、10万人会員を有する。

6教科19科目4000本の動画講座が用意された。
私はスタディ・アプリの無料の成人版を作りたい。

先行事例2

大規模公開オンライン講座MOOC(Massive Open Online Courses)

スタンフォード大学がコースエラ(Coursera)を開始し、2500万人の会員を擁する。

マサチューセッツ工科大学とハーバード大学が共同開発したedXは、1400万人の会員を擁する。
東京大学の講座配信は37万人の会員を擁する。
しかし、修了できるのはわずか5%程度である。

先行事例 3

Navi Schola（ナビスコラ）

京都大学学際融合教育研究推進センター

アンケートによる自分の特性に合わせた学問分野診断や、さまざまな領域が絡み合う学問分野相関図を掲示している。

Navi Schola

あなたにぴったりの学問

京都大学学際融合教育研究推進センターは、1757人の研究者からの「生の声」を元に、12の領域からあなたに合う学問を探してくれる診断ツール「Your Schola」と、膨大な学問分野の関係を解き明かす分析相関図「Schola Scope」を開発した。

いま研究者の方も、これから研究者を目指す方も、まずは一度、自分とその学問との「相関」を見てみよう。

←いますぐ診断する

20問のQuestionに答えていく。

Q1.社会の役に立たない自分のやっていることに意味がないと思う。 Yes No

Q2.どんな時でも、偏見にとらわれず判断できると思う。 Yes No

Q3.誰かとわいわい取り組んだほうが、一人でやるより上手いく。 Yes No

.....

つながりをみる→

- <https://navischola.app/network/9/combined-fields/>

(これをやってみて、私は総合理工系が合っているようだ。しかし、これは実感としてかなり違うのではないかと思う!?)

キャリア・ガイダンスや企業内研修 への応用可能性

このシステムは、学生や成人のキャリア・ガイダンスにも応用可能である。

自分が就きたい仕事＋個人の交差性のデータ=> 最適な学習方略

「どんな学習教材をどのようにして学べばよいか」

企業内研修

仕事の内容と交差性データのデジタル化されたマッチングアプリが役に立つ。

このシステムで留意すべきこと

たえず個人を構成する交差性の各社会的要因の変動に開かれた生涯学習支援システムであること。

これらの生涯学習支援システムは、インターセクショナルな学習者を固定的に捉えるものではない。学習者の社会的属性や学び方を固定的に捉えるシステムではあってはならない。

学習者自身もたえず社会的に変動にさらされており生成途上の動き（揺らぎ）の過程にある。

同時に、学習方法も常に進化しているのである。そうした変動を、学習者のデータや学習方法の変化に反映させていくことが生成AIによる生涯学習支援システムには求められているのである。

今一度、学習からの排除要因 を列挙してみると

階級(class)

性(gender)

人種(race)

民族(ethnicity)

年齢(age)

性的指向
(sexuality)
LGBTQ+

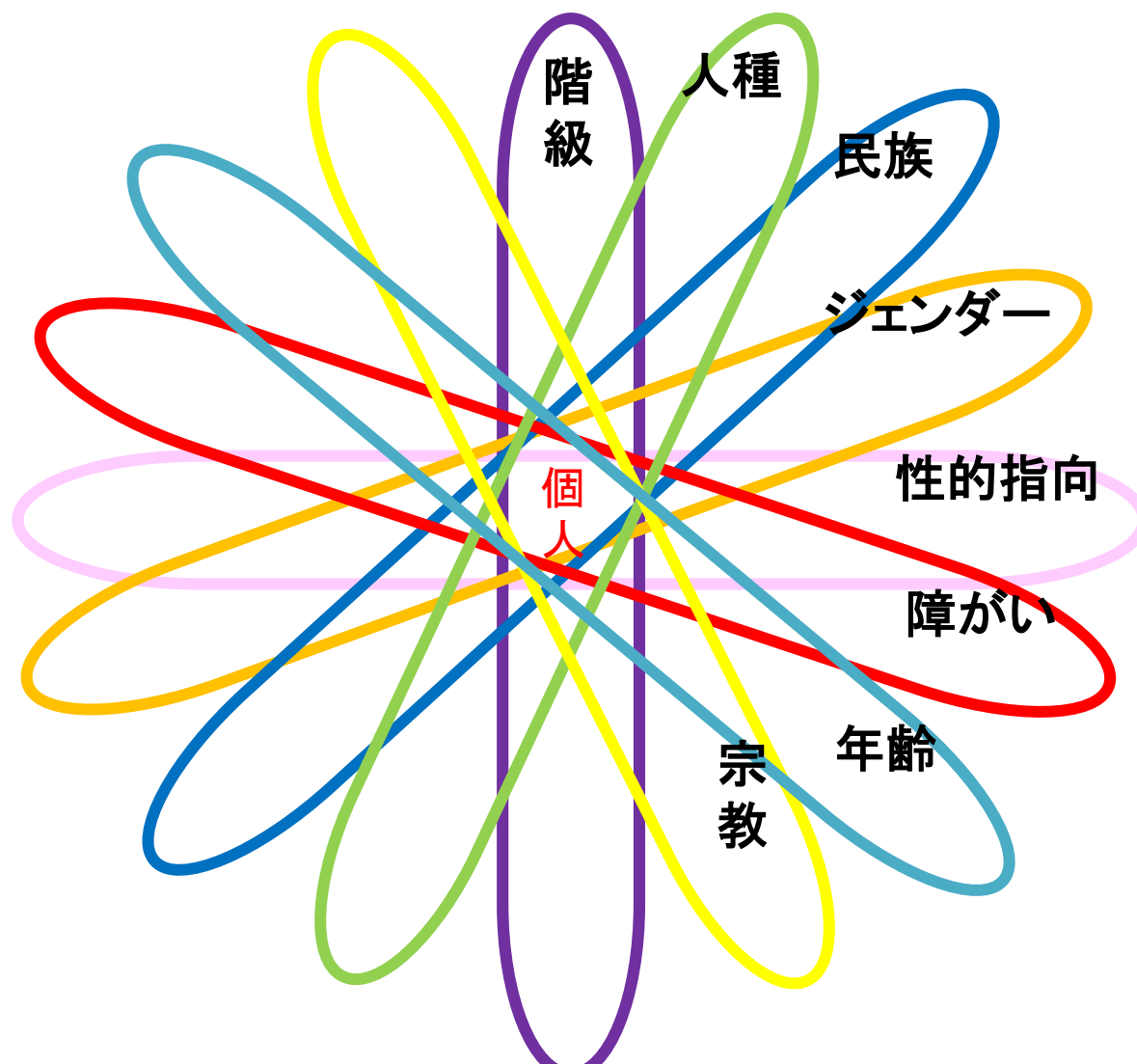
障がい
(disability) そ
の種類・程度

宗教(religion)

地域性(local
community)

ICT機器使用の
有無

インターセクショナル리티の観点からの立 体・複合的な学習支援モデルの試作



複合的要因によって社会で不利益を被っている人々 へのユニバーサルな学習支援

例えば、「移民で視覚障がいをもつ中年男性への学習支援」あるいは「少数民族で聴覚障がいをもつ高齢女性への学習支援」、さらには、「農村在住でICT機器から隔絶された若年男性への学習支援」への学習支援はどのようにすればよいのでしょうか。ここには、民族、障がい、ジェンダー、年齢、地域、ICT機器使用の有無といった**複合的要因**が看取される。問題は、これらの要因が一人の人間のなかでどのような力関係にあるのか、それらのうちのどの要因とどの要因が影響を与え合い亢進しているのか、逆にどの要因が減退しているのか、**複合性の内実**を分析していくことが必要になってこよう。そうした分析から学習支援の回路を開いていく必要があるのではないだろうか。

インターセクショナル리티の観点からの 学習支援の課題

複合的な排除要因を抱える学習者への学習支援の例

「移民で視覚障がいを持つ中年男性への学習支援」

「少数民族で聴覚障がいを持つ高齢女性への学習支援」

「農村在住でICT機器から隔離された若年男性への学習支援」

個に応じた学習支援と 集団の力をかりた学習支援の必要性

これまでの生涯学習・社会教育分野における学習支援は集団（「共同学習」）を中心としてきたが、今後は「個に応じた学習支援」の必要性が惹起されよう。将来的には、各個人が有する**複数の社会的要因のインターセクショナルリティ（交差性）**に基づいて、生成系人工知能(AI)が適切な学習支援の方法を提示できる可能性が期待されよう。同時に、「個に応じた学習支援」と「集団による学習支援」の組み合わせを構想していく必要があるだろう。こうした観点から、どれだけ**社会的に不利益を被っている人々への生涯学習支援**に関わっていけるであろうか。新しい時代の生涯学習支援のあり方が問われてくるのである。

6. おわりに

交差性教育学は、1989年のクレンショーによる問題提起以降、少しずつ外国において展開されつつある。本報告では、交差性のイメージ、批判的教育学との関連性、交差性教育のモデル図、交差性教育の授業実践、生成AIと交差性を掛け合わせた生涯学習支援システムの構想について述べてきた。

今後の交差性教育学の展開を見守りつつ、よりの確な交差性教育学のモデルを構築してゆきたい。

本日の時点での交差性教育学の 定義

インターセクショナル教育学とは、人間が生涯にわたる学習主体として生きる過程において、階級、ジェンダー、人種、民族、性的指向、年齢、障がい、居住地域、国籍、宗教等の社会的要因が複合的かつ内的な葛藤を抱えながら、誰一人としてまったく同じ人間はいないという人間観に基づきながら、変容に開かれた学習要求に応えつつ、ユニバーサルでパーソナルな学習支援および共同的な学習支援を行うための理論的基礎を与える学問である。

ユニバーサルな学習支援をめざして

究極的には、生成AIによる交差性に基づいたユニバーサルな学習支援をめざしたい。障がいを含む複数の要因が複合的に交差する市民への学習支援が目標となる。その例として、まずは次の2つが挙げられよう。

① 視覚障がいを有する外国人への日本語学習支援

母語はなにか、先天性失明か途中失明かによって支援の方法も異なってくる。点字で操作できる「ポケットーク」をさらに発展させた機器を開発する必要がある。

② 聴覚障がいを有する外国人への日本語学習支援

手話で学ぶ日本語の文章教室が考えられる。ただし、手話は母語によっても異なる。

本研究の今後の課題(1)

- ①交差性(intersectionality)の内部における複数の社会的要因の力関係—さらにある状況のなかで一人の人間の内部でどの要因がどの要因を弱めたり強めたりするのか—について、理論レベルだけでなく、**実証データによって明示化**する必要がある。
- ②生成AIを活用した学習者が学ぶ内容の**認識論的レベル**が問われる。受験や資格取得のための学習にとどまるのか？それともより高次の認識にいたる学習に発展していけるか？それを可能にする要因は何か？

本研究の今後の課題(2)

③②とも関わるが、こうした学習支援によって最適な学習方法を編み出した学習者は、自らの**人間観**や**社会観**や**世界観**を確立することができるだろうか？究極的には、こうした高次の学習がめざされることが期待される。

④**生涯学習支援情報の取り扱い**には注意を要する。個人の学習に関するプライバシー情報を取り扱うので、外部に情報が洩れないような機密性をもったシステムを開発する必要がある。

参考文献 1

- Nancy A. Naples, Teaching Intersectionality Intersectionally, International Feminist Journal of Politics 11:4 September Routledge 2009.
- Penny J. Burke & Sue Jackson, Reconceptualising Lifelong Learning: Feminist Interventions, Routledge, 2007.
- Kim A. Case ed., Deconstructing Privilege: Teaching and Learning as Allies in the Classroom, Routledge, 2013.
- Kim A. Case ed., Intersectional Pedagogy : Complicating Identity and Social Justice , Routledge, 2016.

参考文献2

- Kosha D. Bramesfeld & Arla Goodview etc, C'est La Vie: The Game of Social Life, Teaching of Psychology Vol.43, Issue 4, 2016.

- Bonnie Ruberg, Teaching Intersectionality through Critical Game Design,

(<https://commons.org/deposits/objects/hc:30998/datastreams/CONTENT/content>)

- Helena, Teaching Intersectionality: Activities and Resources,

(<https://hcommons.org/deposits/objects/hc:30998/datastreams/CONTENT/content>)

参考文献3

Kimberle Crenshaw, Mapping the Margins: Intersectionality, Identity Politics, and Violence against Women of Color, Stanford Law Review, [Vol. 43, No. 6 \(Jul., 1991\)](#), pp. 1241-1299 .

- ・ 根来美和、丸山美佳「複層的な交差点の時空間として捉えるー クレンショー「人種と性の交差点を脱周縁化する」(1989)再読」『現代思想』第50巻第5号、青土社、2022年5月。
- ・ 根来美和、丸山美佳「抄訳：キンバリー・クレンショー『人種と性の交差点を脱周縁化する：反差別の教義、フェミニスト理論、反人種差別主義政治に対するブラック・フェミニスト批評』(1989)、[URL:https://marusupi.love/kimberlecrenshaw-intersectionality](https://marusupi.love/kimberlecrenshaw-intersectionality) 2023年8月22日アクセス。

参考文献4

- ・P.H.コリンズ、S.ビルゲ著、小原理乃訳、下地ローレンス吉孝監訳『インターセクショナリティ』人文書院、2021年。
- ・ベル・フックス著、里見実監訳、朴和美、堀田碧、吉原令子訳『学ぶことは、とびこえること』筑摩書房、2023年。
- ・ベル・フックス、スチュアート・ホール著、吉田裕訳『アンカット・ファンクー人種とフェミニズムをめぐる対話ー』人文書院、2023年。

参考文献5

- ・赤尾勝己、山本哲士訳「マイケル・アップル「権力の複雑性に直面してー批判的教育研究における平行論的立場のためにー」 Michael W.Apple, Facing the Complexity of Power : For a Parallelist Position in Critical Educational Studies, The University of Wisconsin,Madison,1989.185-213. 山本哲士監修『教育が見えないー子ども・教室・学校の新しい現実ー』三交社、1990年。
- ・上野千鶴子「複合差別論」井上俊、上野千鶴子、大澤真幸、見田宗介、吉見俊哉編集委員『差別と共生の社会学』岩波講座現代社会学第15巻、岩波書店、1996年。
- ・熱田敬子「ポスト証言時代の日本軍性暴力研究ーインターセクショナルな分析のためにー」『現代思想』第50巻第5号、青土社、2022年5月。

参考文献6

- 赤尾勝己「世界の教育リーダー第17回 パウロ・フレイレ(1)ー成人識字教育実践についてー」『文部科学教育通信』No.571、ジアース教育新社、2024年1月15日。
- 赤尾勝己「世界の教育リーダー第18回 パウロ・フレイレ(2)ー自らへの批判とそれへの応答ー」『文部科学教育通信』No.572、ジアース教育新社、2024年1月22日。